

産褥期の子育て支援をする祖母の疲労に対する主観的・客観的評価による検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田幡, 純子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003368

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 30 号

産褥期の子育て支援をする祖母の疲労に対する主観的・客観的評価による検討

(Examination by subjective and objective evaluations of fatigue of grandmothers who support parents during the puerperium period)

田幡 純子 (たばた じゅんこ)

博士 (看護学)

論文審査結果の要旨

本研究の目的は、生後3ヶ月以内の孫の育児支援をする祖母の疲労の様相を明らかにするために、第1研究として主観的評価を可能にする「祖母用育児支援疲労感尺度」の開発を行い、第2研究として、育児支援をする祖母の疲労を主観的・客観的に評価し、疲労に関連する要因を探索し、疲労と生活の質(QOL)の関連を検討することである。まず第1研究において、生後3ヶ月以内の孫の子育て支援をする50歳から69歳の祖母200名を対象に、尺度開発のための質問紙調査を行い策定した『祖母用育児支援疲労感尺度』は、「心身の疲労」「睡眠の不調」「子育て支援への負担感」の3因子、17項目で構成され、4段階評価のリッカートスケールで得点が高いほど疲労感が強くなる尺度であり、信頼性・妥当性が確認された。第2研究では、疲労の実態を明らかにし、また、疲労感とQOLの関連を明らかにするため、過去1週間間に生後3ヶ月以内の孫の子育て支援を行った祖母51名を対象に尺度を用いて解析を行っている。その結果、調査対象の祖母は就床時間が有意に短く、「心身の疲労感」が強く、里帰りがあると「育児支援への負担感」が強いことが示された。また、疲労感尺度合計点の高い群は睡眠の質が低いことが示された。加えて、疲労感を下げる支援により子育て支援する祖母のQOL向上が期待された。従来適切に測定することが困難であった周産期の育児支援をする祖母の疲労について、本研究で開発した「祖母用育児支援疲労感尺度」を用いることで定量的に評価でき、祖母の疲労の様相の一面と支援法の一部を明らかにすることが出来ている。したがって、孫の育児支援をする祖母の疲労の特徴を考慮した祖母への看護支援の tool として、本尺度が活用できる可能性が示唆された。今後、さらに尺度の精度向上を図ることで、祖母の疲労の特徴を考慮した孫の育児支援をする祖母への的確な看護支援が出来ることが期待できる。よって、本論文は博士(看護学)の学位を授与するに値するものと判定した。